議会報告　厚木市議会会派 vol.24

ネクストあつぎ

先を見据えた政策集団!

令和新時代、将来を見据えた街づくりを目指し、若い力が結集しました。市民の皆様の声をしっかり受け止め、政策提言をしてまいります。

小中学校給食 地場産食材拡大に向けて

神子雅人（6期）
厚木市監査委員　総務企画常任委員会委員

6月2日にJAあつぎ本所会議室で「学校給食出荷会議」を開催しました。この会議は、「学校給食への地場産農産物の活用推進」をめざし、相川支所長、大泉部長、馬場次長、本所・相川支所の各担当者、厚木市からは、教育部長、学校給食課長、係長、栄養士の皆さん、農業政策課長と神子が参加しました。

相川支所から「生産者の学校給食部会の活用」「品質の担保」「出荷計画管理」など今後の改善策を掲げた厚木市宛ての提案書をぎからは、「生産者の声かけで、生産者川地区の内海則行理事の両生産組合長、JAあつ

資料とし、地場産食材の活用を拡大する意向の学校給食課と有意義かつ建設的な議論を交わしました。

今後は、生産者、JA、厚木市が連携して会議を重ね、課題を解決し、地場農産物の活用を積極的に推進することで合意しました。

全国市議会議長会 総会等に出席

瀧口慎太郎（4期）
議長　環境教育常任委員会委員

議長公務として、議会関係はじめ市内各種団体総会に出席し多岐に渡る課題や要望について、現状を把握する機会を与えていただきました。

全国市議会議長会総会（815市区）には、高市総理をはじめ衆参議院議長や林総務大臣等の来賓も出席され、会長提出議案として、①多様な人材の市議会への参画促進及び地方議会の権能強化に関する決議②地方税財源の充実確保及び地方創生・地方分権の推進に関する決議③頻発・激甚化する大規模災害等からの防災・減災対策及び復旧・復興対策等に関する決議などについて可決しました。また、喫緊の課題となる都市問題に関する課題である上下水道の老化・防災対策の強化について、令和9年度以降のテーマに学校の統廃合に伴う諸問題等を挙げ、総合的な検討が必要であるとしています。

社会情勢や海外情勢の不安のなか、人手不足や長引く物価高騰など多くの課題が挙げられますが議会として行政と連携を図り、本市発展のため全力で努めてまいります。

～進む桜の老木化～ 未来へつなぐ桜の風景

田口孝男（3期）
総務企画常任委員会委員長

6月議会では、公共施設等における桜の木の管理について一般質問を行いました。

市内の学校や公園、公共施設には多くの桜が植えられ、市民の皆さんに親しまれています。一方で、老木化による樹勢の低下や枝の傷みが数多く見受けられるようになっています。学校や公園だけでなく、これまで市民に親しまれてきた桜の風景の中にはこの先、維持や継承に課題を抱える場所もあります。

倒木などの安全対策はもちろん重要ですが、桜は植えてすぐに景観を形成できるものではありません。将来にわたり桜の景観を守るためには、長期的な視点による維持管理や世代交代を見据えた取り組みが必要です。

今ある桜は、先人たちが未来を思いながら長い年月をかけて育み残してくださった地域の財産です。私たちの世代もまた、安全に配慮しつつ、景観、教育、観光、そして故郷への愛着という視点から、未来の子どもたちへ桜の風景を引き継いでいく責任があるのではないでしょうか。

中学生ピロリ菌検査実施へ

奈良 直史（2期）
市民福祉常任委員会委員長

“がん”は早期発見であれば9割が治癒しますが、ならないに越したことはありません。日本人のがん罹患数の第1位は大腸、次いで胃であり、胃がんの99%はピロリ菌が原因とされています。

ピロリ菌の感染源は昔は川や井戸水、現代は親からの唾液感染により5歳未満で感染。それ以上の年齢での感染はないものの、自覚症状がなく、胃がんの診断を受けて初めてピロリ菌を知ることも珍しくありません。

日本人の胃がんの99%はピロリ菌感染が原因といわれ、検査と除菌を進めることが、次世代への感染の連鎖を断ち切り、市民の生命を守り、医療費削減に向けた取り組みにつながります。

中学生は大人とほぼ同じ薬の量が使えること、また、義務教育で網羅的な検査ができるため、理想のタイミングともいえます。今議会では、中学2年生を対象としたピロリ菌検査の実施を訴えました。幸い、山口市長も同じ思いであり、実施に向けた調整に入ることが表明されましたので実施を待ちたいと思います。

ようやく環状3号線が完成予定！

堀江克己（1期）
環境教育常任委員会委員

Q：環状3号線の現状は
A：愛名地内の宮地交差点から、下古沢地内の市道簡谷上古沢線との交差点までの延長約1，70０メートルの区間について整備を進めているところでございます。このうち起点付近の県道63号や市道愛名森の里線との交差点改良工事を進めるとともに、終点付近の延長約135メートル区間の道路改良工事には、今年度から着手します。

これまで、占用物件の移設や支障物件の撤去などにより工事の工程が遅れておりましたが、現在はそれらの課題も解消し、順調に工事が進めば、年内には完成する予定となっております。

Q：近隣市では、消火栓付近に放水器具や結合金具を収納する収納箱を設置しているそうですが、本市では収納箱の設置をどうお考えですか。

A：それぞれ収納している内容は異なりますが、大和市、座間市、秦野市平塚市、愛川町では設置していると聞いております。現状において本市では設置の予定はありませんが、様々な角度から調査研究してまいります。

消防行政並びに路上喫煙の防止について問う

山口保子（1期）
広報広聴特別委員会副委員長

Q：少年消防クラブの設立の目的は。
A：消防訓練や防災体験を通じて、将来の防災リーダーをはじめ、消防団員や消防職員を希望する人材を育成し、地域防災力を向上させることを目的に発足するものでございます。男女合わせて55人の少年消防クラブ員が誕生いたしました。今後、クラブ活動の充実を図り、家庭や地域で防火、防災の輪を広げ、地域防災力の更なる強化に取り組んでまいります。

Q：消防本部が開催するイベントの取組状況は。
A：消防に係るイベントを計画的に開催することで、市民の皆様に、消防行政に対する理解を深めていただくとともに、救急車の適正利用や火災予防に対する意識の向上を図っております。

Q：路上喫煙の防止について現状と課題は。
A：路上喫煙が罰則の対象となること、禁止区域が拡大することに関して周知を徹底するとともに、禁止区域内に指定する喫煙場所をどのように設置・運用するのかが重要な課題であると考えます。

今までの愛甲石田駅周辺のまちづくりについての一般質問

髙橋 豊（3期）
会派代表　中心市街地活性化特別委員会委員長

Q：愛甲石田駅周辺のまちづくりの進捗と方向性
A：愛甲石田駅周辺まちづくり基本構想に基づき、これまで地域の皆様との意見交換を実施してまいりました。更に幅広いご意見を伺うため、宿泊施設の状況などを考慮し、新規スポーツ施設の整備を検討が生じた場合には、交通アクセスが良いことや経済への波及効果が期待できるなど、愛甲石田駅周辺は整備地として魅力ある地域であると考えております。今後の状況に応じて調査研究してまいります。

Q：交通の要衝である愛甲石田駅近辺にスポーツ・文化・芸能・芸術・防災機能を有する施設を整備する考えは。
A：愛甲石田駅周辺にスポーツなどの多様な機能を有した施設を整備することについては、社会情勢や市内の既存スポーツ施設の状況などを考慮し、新規スポーツ施設の整備を検討が生じた場合には、交通アクセスが良いことや経済への波及効果が期待できるなど、愛甲石田駅周辺は整備地として魅力ある地域であると考えております。今後の状況に応じて調査研究してまいります。